

# 科研費への応募の現状

平成27年9月29日

研究振興局学術研究助成課

## 科研費への応募の現状(総括)

### <全体の傾向>

- 基金制度導入後の平成24年度公募以降、3年連続で応募数は増加している（年平均3.9%の伸び）。年による変動はあるが、過去15年においても増加トレンドにある（年平均1.8%の伸び）。

### <機関種別の傾向>

- 応募数の増加は、大学による寄与が8割以上を占める。対前年度伸び率では、過去10年間、私立大学が国立大学をほぼ一貫して上回っている。

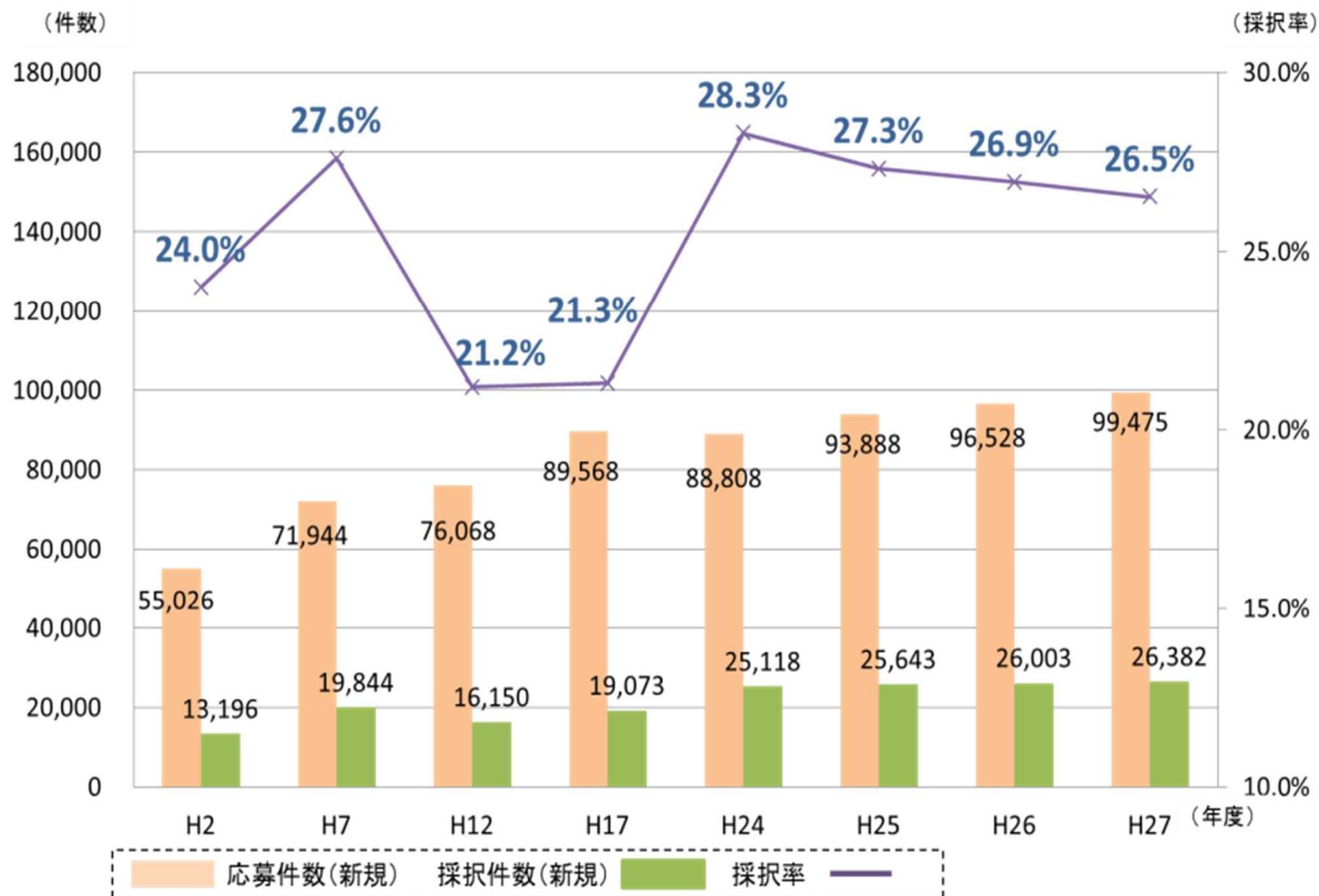
### <分野別の傾向>

- 応募数の増加は、生物系（シェア4割超）の寄与が大きかったが、近年の伸びは鈍化している。人文社会系はシェアが小さいが、伸び率は顕著に高い（近年は寄与度も最高）。

### <研究者数・科研費登録者数との関係>

- 研究者数、科研費登録者数は、過去からほぼ一貫して増加傾向にあるが、伸び率は近年鈍化している（※大学全体では増加しているが、企業の研究者、短大・高専の科研費登録者数は減少傾向）。
- 登録率（科研費応募資格登録者数／研究者数）は、大学全体（平成26年度）で68%（国立58%、公立75%、私立77%）。国公立ともに登録率は増加傾向。
- 応募率（応募件数／科研費登録者数）は、大学全体で4割程度。私立大学が25%程度で安定している一方、国立大学は平成18年度の70%をピークに減少し、24年度以降に反転（直近3年で5ポイント増、60%弱に上昇）。

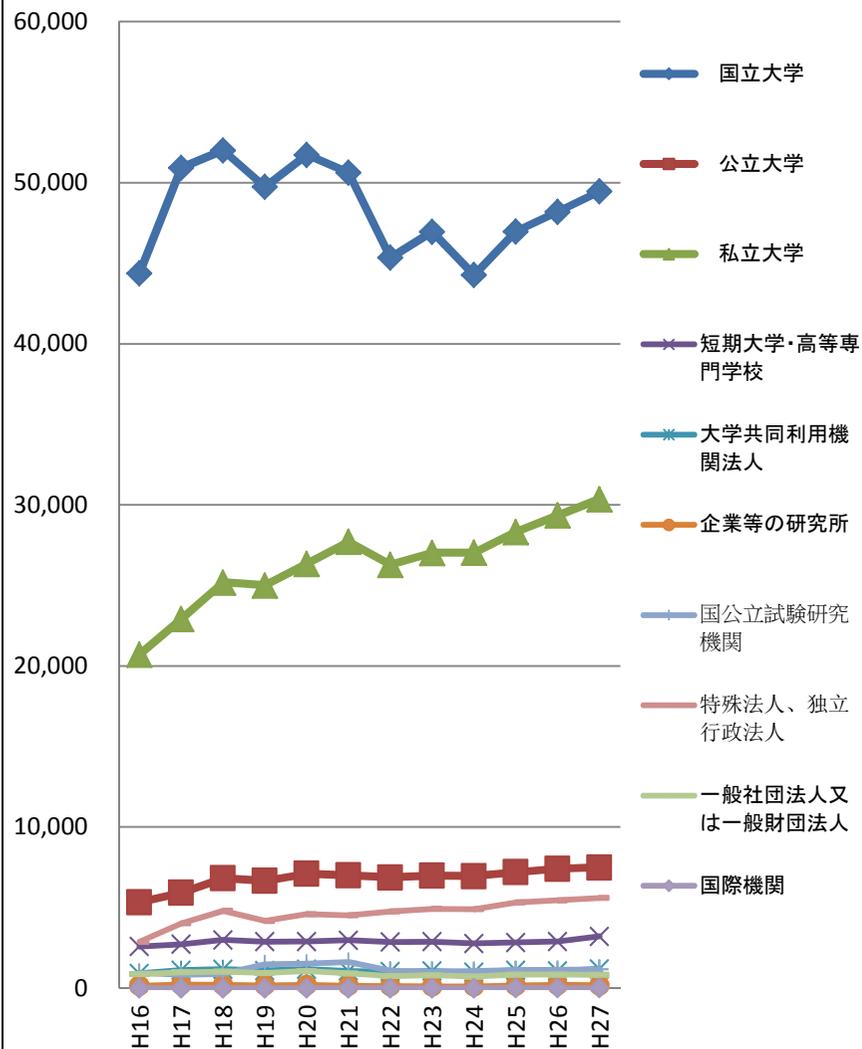
## 科研費の応募件数、採択件数、採択率の推移(全体)



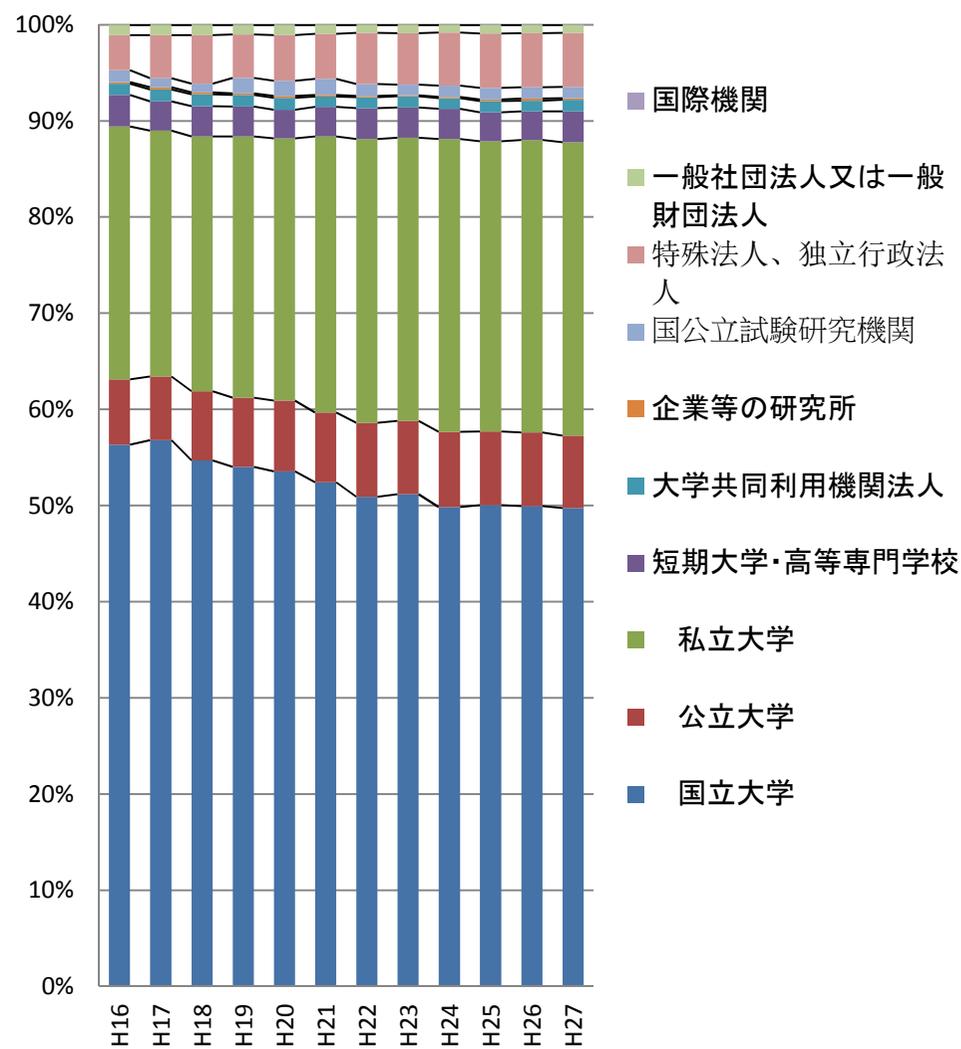
## 科研費の応募件数の推移(機関種別)

- ・国立大学は、4万～5万件で推移し、24年度以降は増加傾向。私立大学は10年間で1万件増加。
- ・応募件数のシェアは、私立大学が3割程度まで拡大する一方、国立大学は5割まで減少。

(3-a) 応募件数の推移(平成16～27年度)  
(研究機関種別)



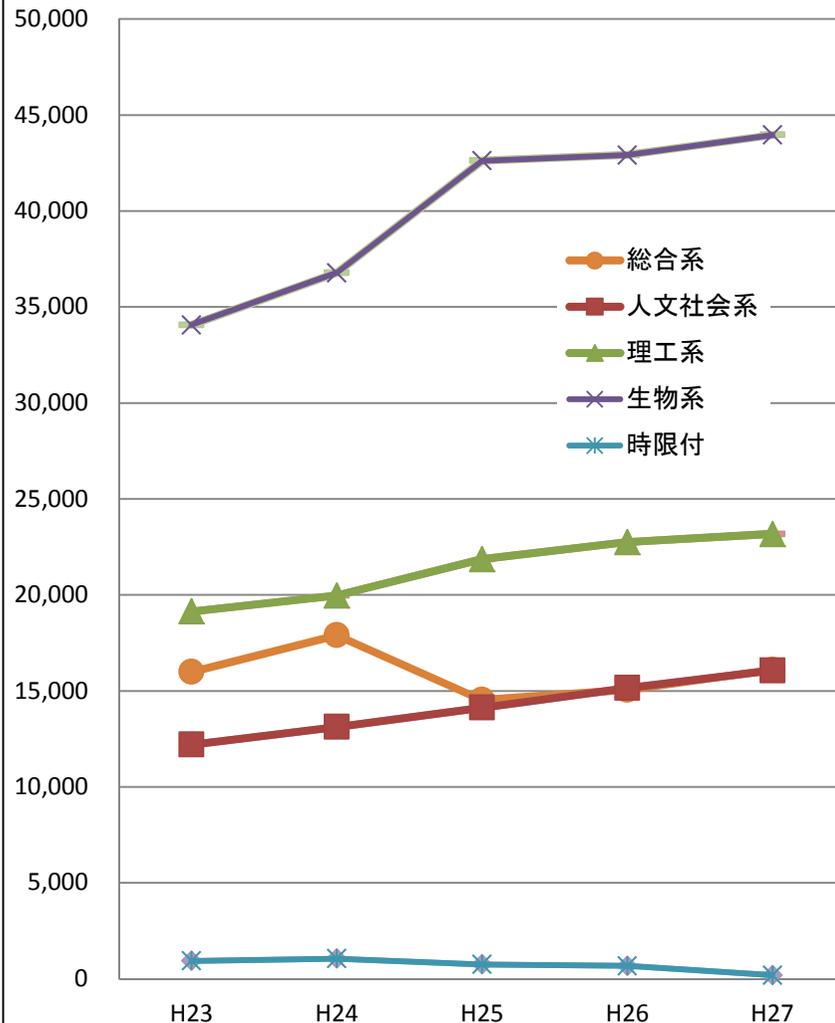
(3-b) 応募件数シェアの推移(平成16～27年度)  
(研究機関種別)



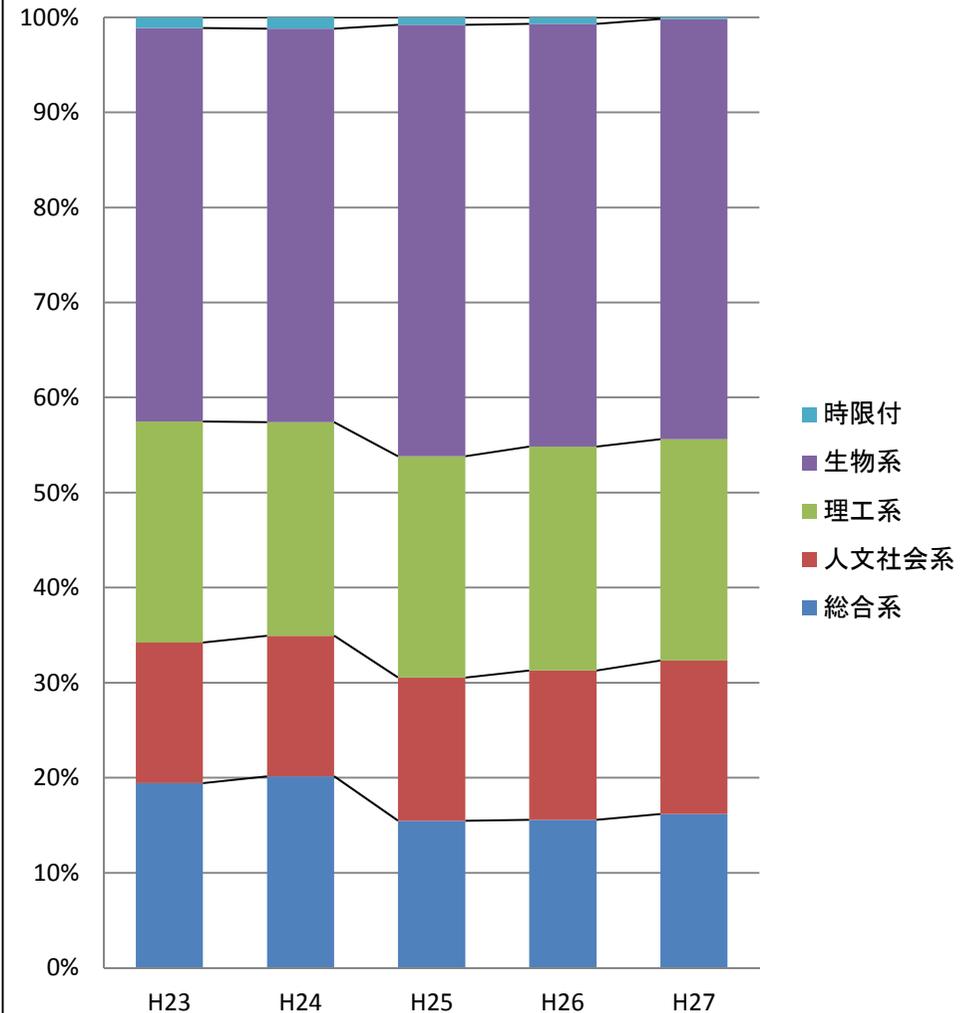
## 科研費の応募件数の推移(分野別)

- ・生物系は、5年間で3.5万～4.5万件で推移し、シェアも約半分を占めている。
- ・理工系は、5年間で2万～2.4万件まで増加。
- ・人文社会系は、5年間で1.2万件から1.7万件まで伸びており、伸び率が高い。

(4-a) 応募件数の推移(平成23年度～27年度)  
(分野別)



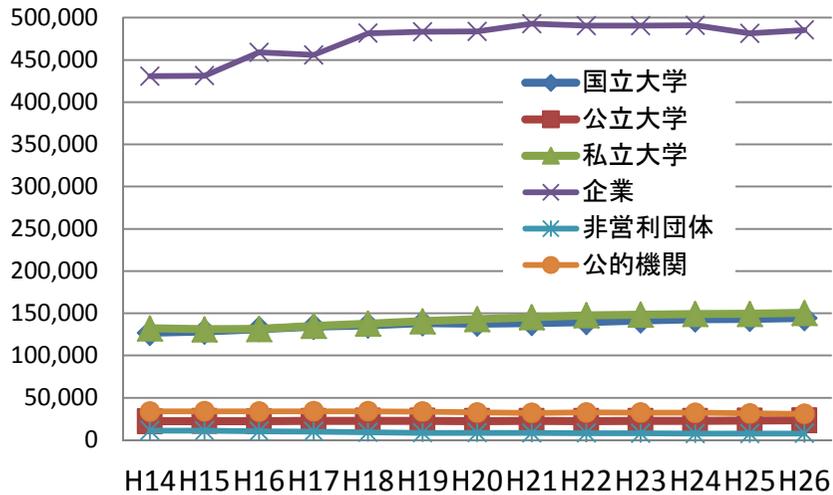
(4-b) 応募件数シェアの推移平成23年度～27年度  
(分野別)



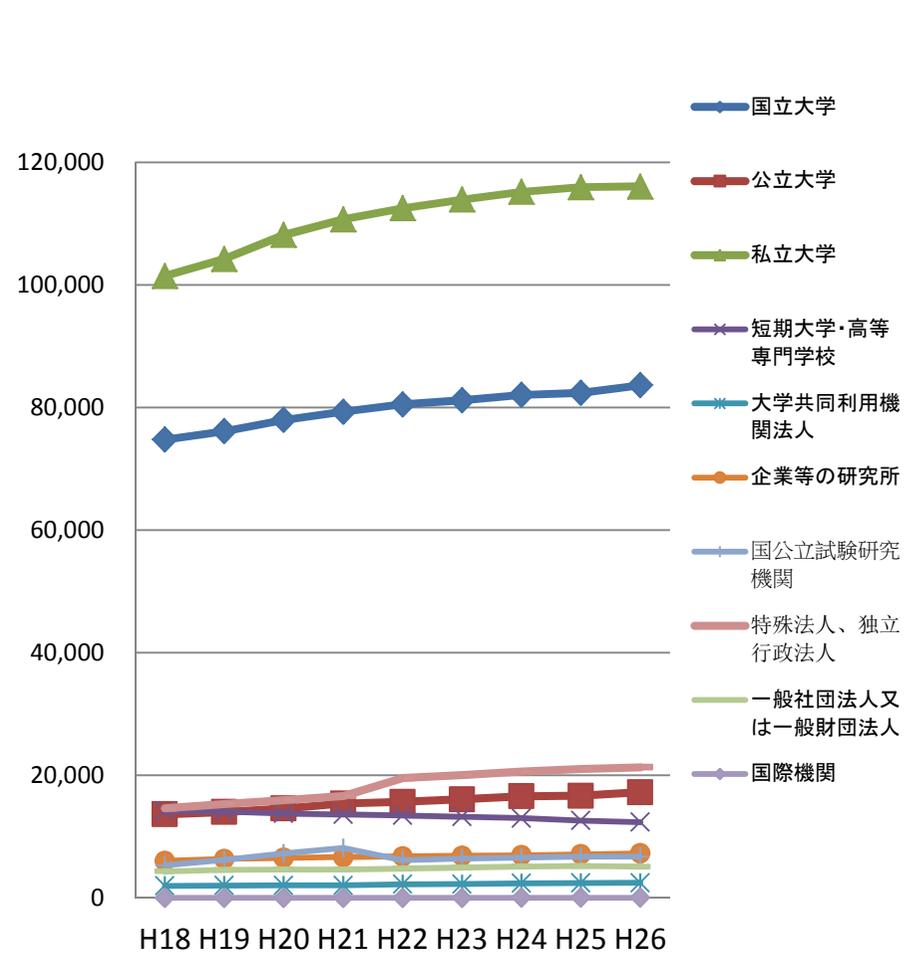
# 我が国全体の研究者数と科研費の応募資格登録者数の推移

- ・大学全体の研究者数は微増傾向。国立大学と私立大学の研究者数は、ともに10年間で1万人程度増加。
- ・科研費の応募資格登録者数は増加傾向。国立大学、私立大学は、8年間で10%を超える伸び。

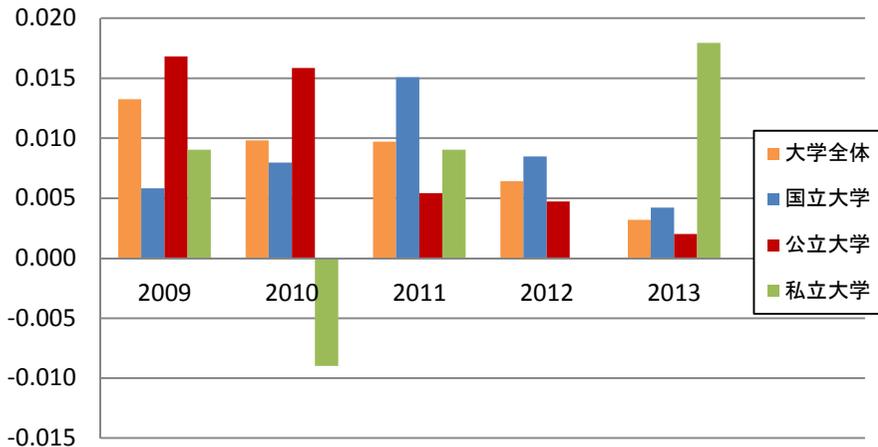
(1) 我が国の研究者数の推移  
(平成14～26年度)



(2) 応募資格登録者数の推移(平成18年度～26年度)  
(研究機関種別)

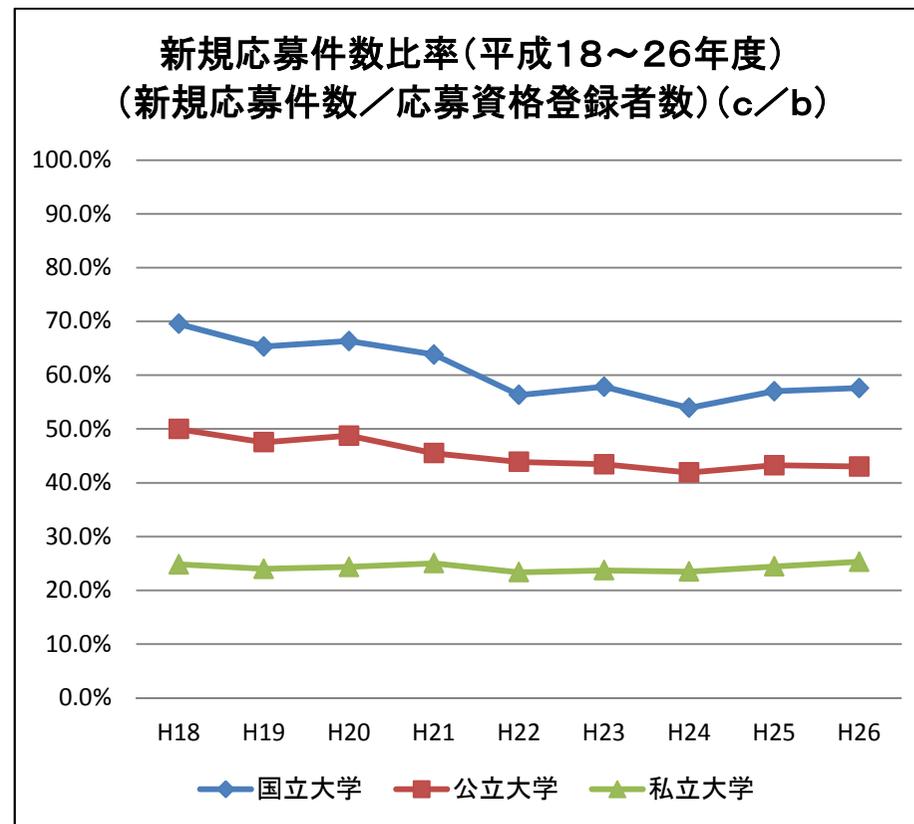
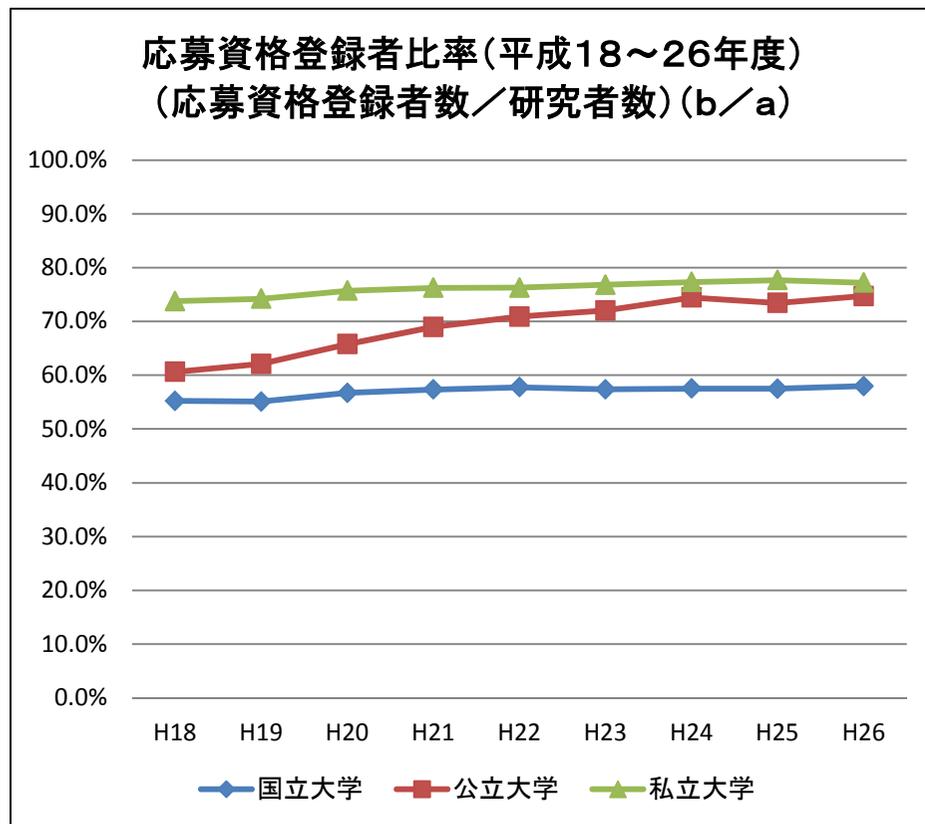


大学等の研究者数(伸び率)の変化



## 国公立大学別の応募資格登録者比率、新規応募件数比率の推移

- ・応募資格者の登録率は、国公立ともに増加傾向。公立大学の登録が急激に伸びている。
- ・応募件数比率は、私立大学が約25%で推移。国公立大学は低下傾向が続いたが、24年度以降は上昇傾向。



		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
(a) 研究者数	国立大学	135,454	138,179	137,531	138,346	139,415	141,472	142,667	143,313	144,299
	公立大学	22,483	22,548	22,133	22,298	22,067	22,312	22,272	22,679	23,049
	私立大学	137,539	140,466	142,828	145,203	147,505	148,315	148,973	149,252	150,310
(b) 応募資格登録者数	国立大学	74,776	76,130	77,981	79,312	80,529	81,177	82,073	82,392	83,646
	公立大学	13,633	14,002	14,562	15,381	15,645	16,072	16,580	16,652	17,226
	私立大学	101,460	104,241	108,152	110,699	112,517	113,943	115,180	115,954	116,049
(c) 新規応募件数	国立大学	52,007	49,740	51,734	50,620	45,349	46,956	44,269	46,978	48,194
	公立大学	6,813	6,653	7,101	6,995	6,865	6,982	6,947	7,201	7,408
	私立大学	25,188	25,000	26,338	27,714	26,286	27,024	27,036	28,320	29,344

# 科研費に関するアンケート調査結果①

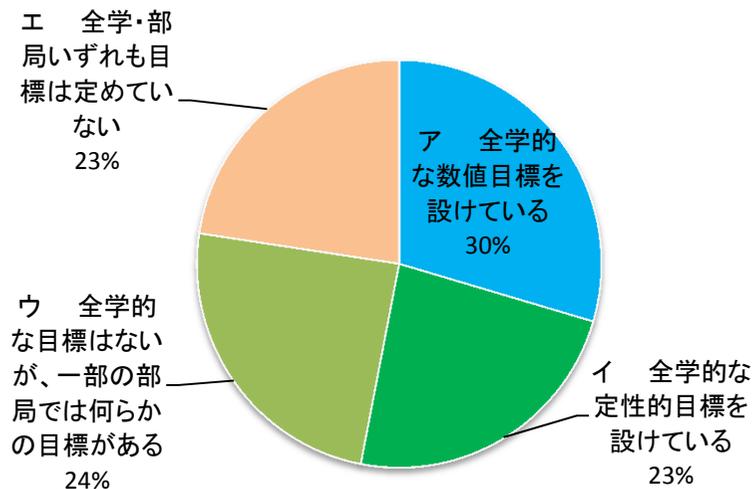
## 1. 科研費の応募・採択に関する組織的目標

- 3割の研究機関で、科研費の応募・採択についての全学的な数値目標を設けている
- 一方、2割の研究機関では、全学・部局いずれも目標は定めていない。

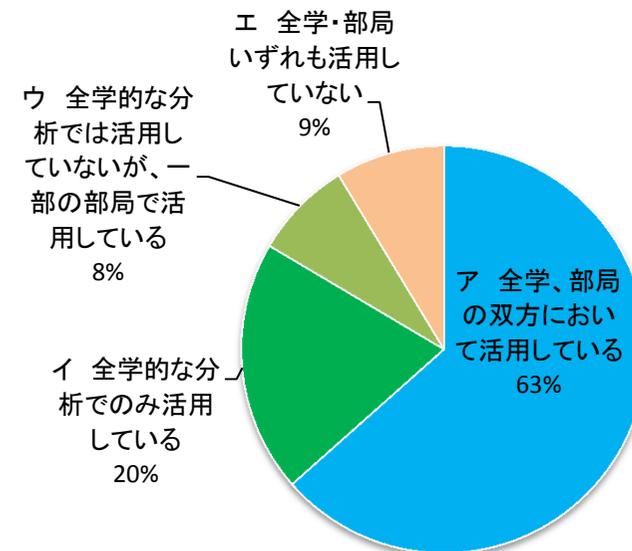
## 2. 機関における研究力の自己評価・分析への科研費の活用

- 9割の研究機関が、科研費の応募・採択を活用している。
- 6割の研究機関が、科研費の応募・採択を、全学、部局の双方において活用している。

大学の組織的目標として、科研費の応募・採択を明示的に位置づけていますか。



科研費の応募・採択の状況に関する情報について、貴学の研究力に係る自己評価・分析に活用していますか。



調査対象： 全国立大学及び平成26年度の科研費の採択件数が200件以上の研究機関(計115機関)  
調査時期： 平成27年3月

## 科研費に関するアンケート調査結果②

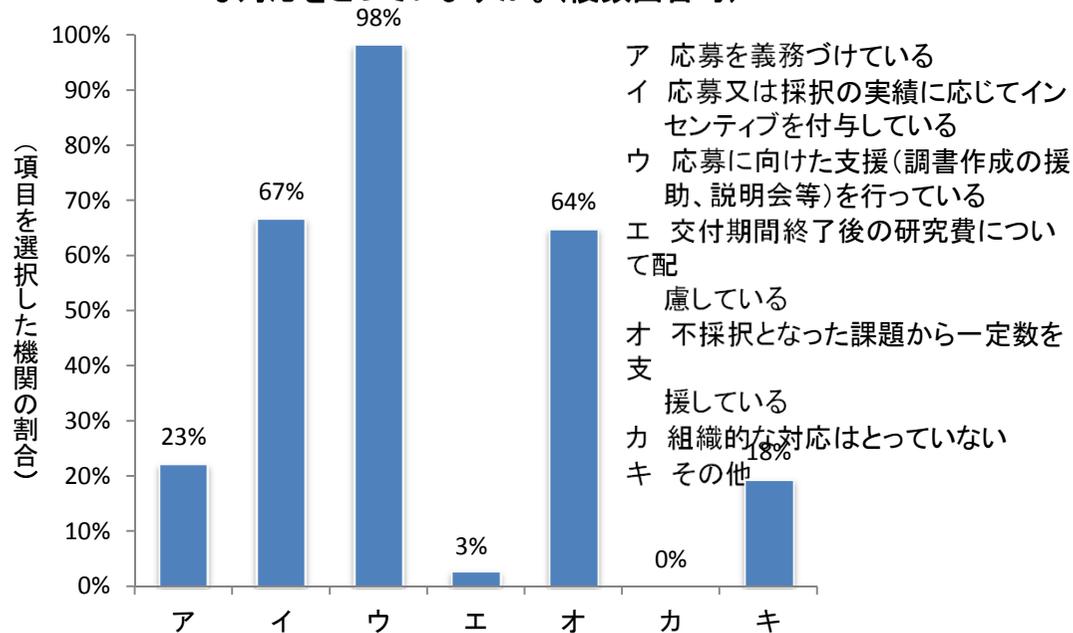
### 3. 科研費への応募・採択に向けた組織的対応

- 組織的な対応をとっていない研究機関はない。
- ほぼ全ての研究機関で、科研費の応募に向けた組織的支援を行っている。
- 6割以上の研究機関で、実績に応じたインセンティブの付与、不採択課題への支援の対応を行っている。

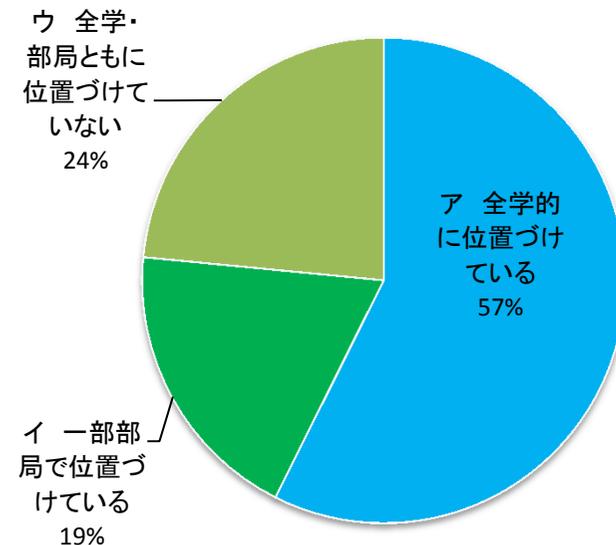
### 4. 教員評価と科研費の関係

- 6割の研究機関で、科研費の採択状況を教員評価の指標に位置づけている。
- 2割の研究機関では、全く位置づけていない。

教員の科研費への応募・採択を促進するために、組織的な対応をとっていますか。(複数回答可)



教員評価の評価指標等において科研費の採択状況を明示的に位置づけていますか。



調査対象： 全国立大学及び平成26年度の科研費の採択件数が200件以上の研究機関(計115機関)  
 調査時期： 平成27年3月

# 国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン(抄)

(平成27年9月14日 一般社団法人 国立大学協会)

## ○国立大学の基本機能の維持向上

○ポイント1:優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入環境の整備

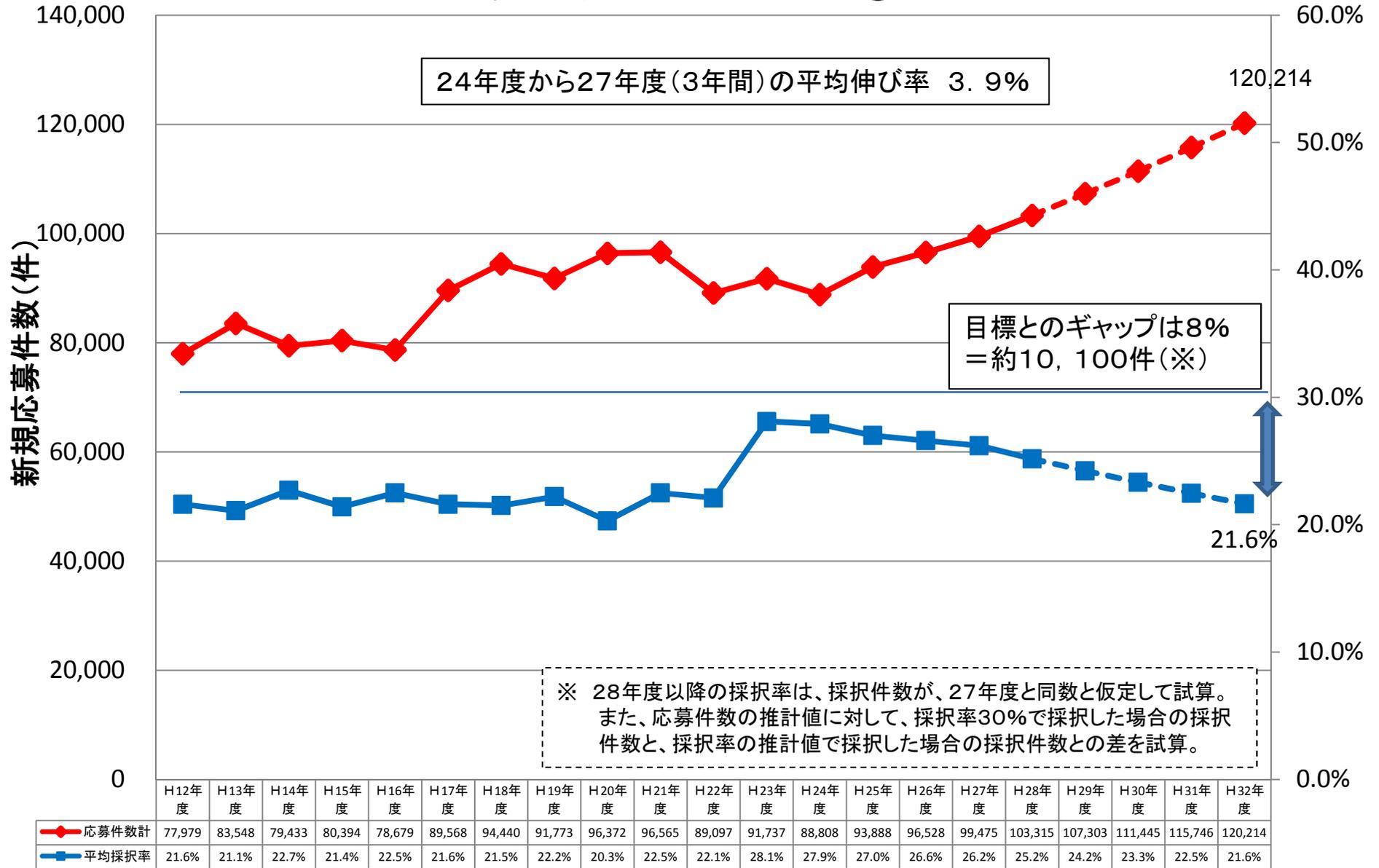
○ポイント2:大学間等の機能的な連携・共同による教育研究水準の向上

## ○以上の取組(基本機能とポイント1~2)に係る財政措置及び制度改革の在り方

国立大学は、今後、以上の取組を主体的にかつ着実に実行していく。他方、国には、厳しい財政状況の下ではあるが、これらを支える制度・環境の整備と支援を要請するものである。その中で、特に教育研究経費の配分については、教育研究の特性である多様性、長期的な視野、自由な発想等の重要性に鑑みて、次のような基本的な考え方に基づくべきである。

- ① 基盤的な教育経費は安定的な運営費交付金で保証する。そのためにこれ以上の運営費交付金の削減は行わない。
- ② 個々の大学の特長を活かした基盤的な研究や研究者の独自性の高い研究についても運営費交付金で安定的に措置する。
- ③ 大学・研究組織の連携・共同で展開する研究・教育については、運営費交付金の一部と文部科学省内の競争的資金の一部を一体的に活用できるよう柔軟かつ競争的に支援する。
- ④ 研究者の個々の自由な発想に基づいたボトムアップ研究は、文部科学省科学研究費補助金で支援する。
- ⑤ 各省庁が牽引する社会ニーズに対応するための研究費については、各制度の趣旨・目的や相互の関連性を整理した上で、大学間、連携グループ間、あるいは個人間での競争性に基づいた方法により配分する。

# 応募件数・採択率の推移①(高位推計)



## 応募件数・採択率の推移②(低位推計)

